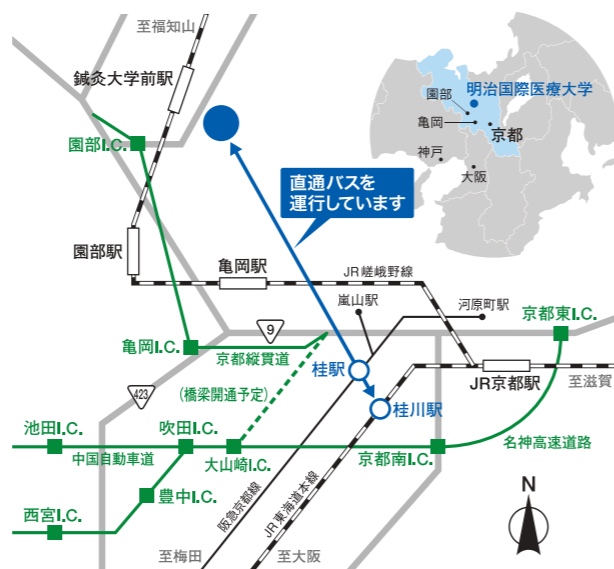


明治国際医療大学

2010年4月から 大学へのアクセスが 便利になりました!

JR山陰線(京都～園部間)の完全複線化、JR桂川駅・阪急桂駅からの直通バスの運行により、本学への通学時間が、大幅に短縮されました。直行バスの料金は、一般1,000円、学生300円(回数券利用)です。本学にお越しの際には是非ご利用ください。また、今年度より、マイカー通学も可能となりました。ルールを守り、安全運転で通学してください。



大学ロゴマークが決定しました!

本学では、昨年度大学ロゴマークを広く公募させていただきました。315点の応募があり、厳選なる審査の結果、このロゴマークが選ばれました。ロゴマークには、本学の英文表記である Meiji University of Integrative Medicine の M と U と i を組み合わせ、人の文字と人を表し、また、人と人の和や支え合う心を表し、医療にたずさわる人の思いがイメージされています。

宿泊のご案内

本学へお越しの際、京丹波の玄関口となる京都市西京区のホテル「京都エミナース」をご紹介します。当ホテルは、静穏な洛西の地にあり、天然温泉「京都竹の郷温泉」併設で、ゆっくりお寛ぎいただけるものと存じます。また、「高島屋洛西店」等の商業施設にも隣接しており、お買い物等の利便性も優れています。なお、宿泊料金は右記のとおりです(全室ツイン仕様)。また、本学へは直行バス(有料)をご利用ください。

洋室ツイン1名利用 6,580円～ 7,000円

洋室ツイン2名利用 11,900円～12,880円

※宿泊料金は1泊朝食付 税込込みで、通常料金の30%割引です。
※ご宿泊者は「京都竹の郷温泉」を無料で何回でもご利用いただけます。
※宿泊の空き状況およびお申し込みは、直接ホテルへお願いします。

ホテル京都エミナース

TEL 075-332-5800 FAX 075-332-6927
〒610-1143 京都市西京区大原野東境谷町2-4(洛西ニュータウン内)

編集後記

「明治国際医療大学だより」を初めてお届けします。本学は、鍼灸学部だけの大学から保健医療学部、看護学部と3学部の体制になりました。当初は、同窓会誌が大学便りの役割を果たしていたのですが、現状では十分な対応がとれなくなりました。そこで今回新たに本紙をもちまして、在校生とその御父母や保護者の皆様に大学のニュースなどをお届けすることになりました。年2回の発刊を予定いたしておりますのでよろしくお祈りいたします。

本誌は広報委員会の下で不慣れなスタッフが誌面の構成に当たっております。至りませぬ部分や不充分なところがあるかと存じますが、しばらくご容赦下さい。

(文責:田中忠蔵)

明治国際医療大学

2008年4月 明治鍼灸大学から改称

鍼灸学部(鍼灸学科) * 保健医療学部(柔道整復学科) * 看護学部(看護学科) * 大学院(鍼灸学研究科)

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL 0771-72-1188(入試事務室) FAX 0771-72-0326

E-mail exam@meiji-u.ac.jp

携帯サイト www.meiji-u.ac.jp/i/



財団法人日本高等
教育評価機構より
大学評価基準を
満たしていると認定
されました。

明治国際医療大学だより

News from Meiji University of Integrative Medicine

Vol.1

大学情報誌



新入生の皆さん、入学おめでとう!

平成22年度大学・大学院入学式が、4月8日(木)に講堂にて行われました。新入生の皆さんには、これからの4年間が勉強、友人関係、クラブ活動などを通じて新しい知識や世界を広め、充実した大学生活となりますことを心よりお祈りいたします。



当日はお天気にも恵まれ、春爛漫の満開の桜が咲き誇るすがすがしい入学式の日でした。講堂横のキャンパス中庭に植えられたしだれ桜は、京都の円山公園の桜と同じものです。

桜満開のキャンパス。

「明治国際医療大学だより」を創刊します。

このたび、学内情報を保護者の皆様にお伝えるため、大学情報誌「明治国際医療大学だより」を創刊する運びとなりました。本誌は、学生さん達の日々の生活を身近に感じとっていただけるよう発行するもので、年2回の発行を予定しております。なお、創刊号となる今回は、医学教育研究センター、鍼灸学部および保健医療学部のゼミ紹介と看護学部の紹介。また、事務局から直行バスの運行等の情報提供を行っています。

Medical Education and Research Center

医学教育研究センター

今回は、中山登稔先生の卒業ゼミを紹介します。

指導教員：医学教育研究センター 中山登稔 教授

急性の筋疲労モデルを作り、低周波治療を行い、その効果をみる実験を行っています。写真は、疲労を起こした筋肉の圧痛を測定しているところです。このテーマのゼミを希望した理由についてゼミ生たちに聞いてみたところ、「柔道整復では低周波治療が一般的に行われているので、卒業前に実際の効果を自分で確認したかった」、「自分で経験して心地よかったので興味を持った」などでした。授業が終わってから実験が始まるので、どうしても夜遅くになりがちですが、みんなで協力しながらデータを取っている様子に、自分たちの将来像をしっかりと見つめ、取り組んでいることがよく分かりました。ぜひ多い卒業論文となることを期待したいと思います。



ゼミ生：小川君、小笹君、鈴木君、堤君 (保健医療学科4年生)

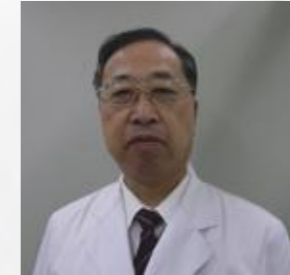
鍼灸学部 鍼灸学科

第1回 卒業研究 松本ゼミ テーマ

「鍼灸臨床技術の習熟」

鍼灸学部の授業風景を紹介する本企画、初回は4年次配当の「卒業研究」から加齢鍼灸学教室の松本教授のゼミにご協力いただきました。

科目担当者：
加齢鍼灸学教室 松本 勅 教授



このゼミは、「臨床の実力を身につけたい」という学生の要望にこたえて開設しています。知識・技術の習得と臨床経験を多く積むことに主眼をおいて2つのことを行っています。

- ① 診療に必要な知識・技術の実技室での講義・実習。
- ② 正規の実習学生が入らない期間や夏期・冬期および春期休暇中の高齢者施設や附属鍼灸センターでの約80～120人の治療。

これにより、他の学生に比べて4、5倍多い診療経験のある「高い実力を持った鍼灸師」として卒業していきます。



卒業時どう成長しているかは
このゼミでの私の頑張りが実証！
里見

しっかり勉強して臨床の力を養いたい
と思います。 全田 采依

本ゼミの学習の内容及び、知らず知らずのうちに臨床の知識が身に付いてきたことに感謝しています。
今井 絢子

貴重な体験ができて本当に
勉強中です。
和田 采莉香

授業情報

科目名：卒業研究(配当年次：4年 前期・後期)
単位数：4 (必須)
授業時間：120 (前期後期合計)

それぞれの学生が学びたい分野に関する豊富な知識と経験を持った教員に1年間指導を受け、卒業論文を作成します。本学では、このようなゼミのテーマが79講座も開設されます(2010年度の開設数)。



実技前に入念な基礎知識の確認が行われます



今日は膝疾患に対する鍼灸治療がテーマ、重要な疾患なので指導にも熱が入ります



和やかな雰囲気の中にも適度な緊張感があります

第1回 教室紹介

「臨床柔道整復学I教室」

保健医療学部を構成するユニットを紹介する本企画、初回は柔道整復業務の中の「骨折」を担当する臨床柔道整復学I教室の紹介です。

主任教授：臨床柔道整復学I教室 竹内義享 教授

本教室は、骨折の保存療法を主として扱っており、骨折の評価、治療（整復法・固定法）、後療法（骨折のリハビリテーション）に関する講義・実習を担当しています。また、軟部組織損傷に関するセミナーもあわせて行い、外傷（障害・傷害）への対応が可能な人材育成に努めています。卒業後、整形外科での即戦力をめざし、また、独自色のある開業が可能な意識の高い医療人を養成するために、以下の取り組みと活動を行っています。

担当授業

科目名：骨折治療学I・II
観察評価学
伝統柔道整復演習



左から、上村英記先生、竹内義享先生、田口大輔先生

教育



臨床に直結する実習教育を充実するために、複数教員による指導（チーム・ティーチング）を行っており、個々の学生の要望に対応し、多様化するニーズに応えられる環境を準備しています。また、教員は常時、質問に対応できるよう努めています。

卒業研究ゼミ



竹内ゼミでは、竹内教授の指導のもとで自主的・主体的に自分の選択した分野（テーマ）の研究・調査を行っています。活動内容は、研究におけるデータ収集から毎週行われる担当制の論文輪読、その後臨床技術の向上を目的に実技実習を行います。実技を理論で裏付けることのできる人材育成の一環でもあり、少人数制のために学生の満足も得られています。

臨床研究会 OMEGA

臨床研究会 オメガとは、学部、学年の壁を無くして、運動器の知識（運動器の解剖、機能解剖学）と臨床応用を自主的に身につけることを目的に発足した研究会です。本教室がアドバイザーとして発足当時から関わっており、既に7年目を迎えます。活動としては、週2回の勉強会と関連分野の論文収集、OB会（レゴール）との交流会、人体解剖実習など、大学でしかできない多くの活動を行っています。また、学生交流の場としての役割も果たしています。

障害相談



毎週木曜日に学生および職員を対象にスポーツなどで生じた運動器傷害や不安に対して、積極的な障害相談を行っています。また、この障害相談は、学生にとって臨床を目の当たりにする貴重な教育の場としても活用されています。その場でのディスカッションも大歓迎です。



気分転換におこなう「飲み会」もとても大切なゼミ活動となっています。

看護学部看護学科の紹介



看護学部 学部長
山田皓子 教授

看護学部は、2006年4月に開設した新しい学部です。本年3月に初めて卒業生を世に送り出しました。大学院修士課程への進学者1名と病院、福祉施設などへの就職者31名でした。全員が大学卒業という目標を達成し、これから各自の人生において、専門職としてどんな分野で、どんな活躍をしていくのか楽しみです。将来、本学で修士課程を開設したときには、仕事の上での疑問や追求したい研究課題をもって、またこの学び舎に戻って来て欲しいと思います。そして、各々が（研究）課題を追求し、さらに専門性を深め、社会に看護の専門性を還元していける、より有用な人材となっていくことを願っています。後輩たちも先輩たちのそれぞれの場での活躍を誇りにし、さらに邁進することでしょう。本大学は、これからも常に社会や政治、経済、医療の進展の中で、大学教育のあるべき方向性を探り、真摯に立ち向かっていくことでしょう。在学生・卒業生の皆さんには、本大学を、自然豊かなこの日吉の森で伝統を積み重ねながら、さらに発展する大学として、誇りにして欲しいと思います。



やがて来る超高齢社会では、人が人をケアすることの重要性がさらに増します。今年、看護系大学は193校に増えました。その中であって、本学には、看護学部のほかに、鍼灸学部、保健医療学部が併設されており、学部生時代からチーム医療や統合医療を学ぶ素晴らしい環境にあります。さらに、東洋医学と西洋医学の融合を高年齢者看護や緩和ケアや終末期看護の中に活かせるカリキュラムを組み込んでいます。授業科目では東洋医学概論、東洋医学診断・治療学、コンプリメンタリーセラピー援助論（補完代替療法）、コンプリメンタリーセラピー方法論など、他の大学には無い特徴を備えています。その他に、国際交流講演会として2009年には、「看護における補完代替療法―意義歴史新たな挑戦―」をテーマに、ミネソタ大学名誉教授Mariah Snyder博士を招聘しました。今年度は、「これからの看護―看護独自の補完代替療法への挑戦―」として、ゴールデンウエスト大学教授橋本ルミ氏を招聘してヒーリングタッチをご教授いただきます。



看護領域での補完代替療法は、健康、不健康、安らかな死への援助、家族支援のどの場でも活かすことができます。伝統医療や東洋医学の善い点、強みを看護のエビデンスとして語れるようにさらに追求し、それらを看護学教育に組み入れ、看護師が使える技術として身につけられるよう看護学部教員は一丸となって取り組んでいます。他の大学看護学部には無いユニークさが、本学の学生に加味されることを期待しててください。そして、何よりも本学の学生は、豊かな自然環境の中で、沢山の愛情に包まれて、ゆっくり学んでいます。最後に温かく見守り、いつも看護学部を応援して下さい。皆様、心から感謝申し上げます。